

# まちのわだい

## おいしいお酒になりますように

〜どぶろく上代 酒米の稲刈り〜



9月21日（水）、伯耆町福岡で酒米「五百万石」の稲刈りが行われました。町内でどぶろくを製造する上代や境港の干代むすび酒造、皆生温泉の関係者、森のようちえんの子どもたち約50人が、豊かに穂が実る稲を刈りました。

今年で15回目の稲刈りとなる酒米「五百万石」は、皆生温泉オリジナル日本酒の「海に降る雪 上代」や上代が製造する「どぶろく 上代」の原料で、5月に田植えを行ったものです。稲刈りの数日前には台風が通過し、その影響が心配されましたが、稲が大きく倒れることなく立派に育っていました。稲刈りに参加した子どもたちは、保護者や友だちと協力しながら、鎌を片手に一生懸命稲を刈りました。

この稲刈りを主催した上代の遠藤さんは、今年8月に代表取締役就任したばかり。酒造りに関わる方の高齢化で会社の存続が危ぶまれていた中で、「多くの人に愛されている商品や会社がなくなるなんてもったいない。私にできることがあるならやってみよう」という思いから、知人の請川さんとともに会社を継ぐこととなりました。現在は遠藤さんが経営を、請川さんが社長として酒造りを中心に、新たな体制で動き出しています。

遠藤さんは「このどぶろくの味わいを守りながら、より多くの方にどぶろくを知っていただけるよう様々なことに取り組んでいる」と話し「3年後にはどぶろくの日本一となることを目指して、お酒造りに一層励みたい」と意気込みました。

なお、今回稲刈りをした酒米を使用したどぶろくは、11月頃に仕込みをはじめ、12月に完成・販売する予定とのこと。



酒造り新たな担い手の遠藤さんと請川さん



稲刈りの様子

## めざせ 和牛日本一!

〜全国和牛能力共進会へ出発〜

第12回全国和牛能力共進会鳥取県推進委員会は10月3日（月）、鳥取県西部農業協同組合溝口支所で全国和牛能力共進会会場へ向かう出発式を行いました。

全国和牛能力共進会は、全国の優秀な和牛を一堂に集めて、和牛の改良の成果や肉質の良さなどを競う5年に一度の全国大会です。今年の第12回大会は、鹿児島県で開催され、鳥取県から21頭、伯耆町からは12頭が出場します。

当日は出品者ら約50人が参加し、全共県出品対策部会長の小林さんは「種牛区の14頭、肉牛区の7頭が鳥取県の代表。この21頭が宮城全共と同様に旋風を巻き起こし、鳥取和牛のさらなる発展を祈念している。ぜひ頑張ってください」と激励しました。

トラックには3日に出発する牛たちが乗っており、大会に向けて出発すると関係者たちは拍手をして見送りました。



出発式の様子